重要なまちづくりの課題の現状評価シート

重要なまちづくりの課題（めざすべき姿）	市民一人ひとりがごみ問題を自分の問題として捉え、マナーを守っている	
施策名	ごみ排出マナーを向上させる	No.26

年度	平成27年度
責任部長	環境部長
主担当課長	清掃対策課長
関係課	—

1. まちづくり指標の現状

まちづくり指標		指標のめざす方向	現状値	実績値					目標値
			H18	H20	H21	H22	H23	H24	5年後
			H24	H25	H26	H27	H28	H29	10年後
ごみに関するマナーを守っていると思う人の割合（%）		↗	97.2	96.9	97.3	97.7	97.7	98.1	98.0
			98.1	98.7	98.6	98.4			98.5
警告シールの貼付数（枚）		↘	83,319	61,109	143,678	130,543	131,263	126,175	74,492
			126,175	130,388	117,623	122,511			118,137
不法投棄ごみの回収量（t）と回収回数（回）	① 回収量（t）	↘	401.4	325.7	134.1	156.6	103.1	142.0	357.2
			142.0	141.3	104.7	146.6			91.8
	② 回収回数（回）		612	374	551	640	474	374	522
			374	291	323	302			419

2. 外的要因（世論、自然環境、社会動向、民間・NPO活動等）

リサイクルやごみ減量に対する関心も高まりを見せ、適正分別の必要性の認識は高まっている。また地域の環境や景観保全の関心も同様である。

3. めざすべき姿に対する現状評価（まちづくり指標や外的要因等からの評価）

現状評価	B 停滞	「ごみに関するマナーを守っていると思う人の割合」は、平成20年度からごみの出し方分け方のルールを全市域で統一、指定ごみ袋制度も導入により、ごみと資源の分別意識が向上し高い数値を維持しているが、微減である。「不法投棄ごみの回収量と回収回数」については、不法投棄物の放置が更なる不法投棄の温床となることから早期発見・回収に努めたためである。しかし、警告シール枚数は違反内容物を表記した違反シールを添付した結果であり、排出者に分別ルールの周知徹底を図る必要がある。

評価がB・Cの場

4. 事務事業群に対する評価（行政活動の評価）

長期成果（事業群①）	長期成果（事業群②）	長期成果（事業群③）	長期成果（事業群④）
市民が正しいごみの分け方・出し方を理解している	不適切なごみを排出しない		
指定ごみ袋事業	犬猫管理意識高揚事業		
ごみ排出指導事業	空き缶等ごみ散乱防止事業		
ごみ減量啓発事業	不法投棄対策事業		
環境保全・ごみ減量推進モニター事業	路上喫煙防止事業		

評価観点	1. 長期成果は重要なまちづくりの課題（めざすべき姿）の一歩手前の状態となっており、モレなくダブリなく設定されているか。 2. 各事業群の事務事業は、長期成果を達成するのに必要十分であるか。
評価	長期成果の設定は、ごみ排出マナーの向上について「市民の正しいごみの分け方・出し方の理解」と「不適切なごみの排出をさせない」という切り口で捉えており問題はない。また、各事務事業についても、「ごみ排出マナーを向上させる」を達成するために必要な事業である。マナーを守っていると思う人の割合が微減であり警告シールの貼付数は増加している点から、分別ルールの間違った思い込みをしている人も多いと思われるため、今後も分別ルールを啓発活動を継続的に行っていく必要がある。
次年度の改善計画	「ごみと資源の分け方・出し方辞典」（平成26年11月改訂）の紙媒体だけでなく、ごみの分別区分や収集日を調べることができるウェブアプリ 「一宮市ゴミチェッカー」（平成27年7月公開）の電子媒体の導入により、若い年代の方にも「分別ルール」を周知し啓発活動を行っていく。

＊＊＊